

電子書籍 復刻版

# 民俗臺灣

風俗・習慣の研究と紹介

弊社刊行の『国際写真情報 復刻版』との  
横断検索により、戦中の日本、台湾、東アジア、  
民俗学、植民地の研究が一段と充実します。

各巻本体価格 **26,400円+税** (税込29,040円)

第1巻 1941年7月創刊号～1941年12月号 ISBN 978-4-86759-211-3

第2巻 1942年1月号～1942年6月号 ISBN 978-4-86759-212-0

第3巻 1942年7月号～1942年12月号 ISBN 978-4-86759-213-7

第4巻 1943年1月号～1943年6月号 ISBN 978-4-86759-214-4

第5巻 1943年7月号～1943年12月号 ISBN 978-4-86759-215-1

第6巻 1944年1月号～1944年6月号 ISBN 978-4-86759-216-8

第7巻 1944年7月号～1945年1月号 ISBN 978-4-86759-217-5

全巻揃価格 184,800円+税(税込203,280円) ISBN 978-4-86759-183-3

印刷書籍 (全巻揃) : 本体価格 184,800円 + 税  
ISBN978-4-86759-322-6

本書の内容がわかる「試読ページ」をご覧ください。

『民俗台湾 復刻版』 試読公開中  
<https://kanae-ebook-0303.actibookone.com>



同時1～3  
アクセスともに  
同一価格です。





日本統治時代の台湾研究に欠かせない情報が、論文・写真・広告として満載。

新しい文化の影響を受け、常に変遷しつつある台湾のあらゆる民俗や文化を記録した貴重な資料集。

## 本書を推薦いたします(敬称略)

島村恭則

関西学院大学社会学部教授

## 日本民俗学を相対化する「もう一つの民俗学」

「民俗学」を「柳田國男が創始した学問」だと考えている人がいる。

だが、それは誤解だ。民俗学は、18世紀末から19世紀初めのドイツで発生し、世界各地に拡散した。

そして、これを受け入れた側は、自らの社会のあり方にあわせてその体系を再編した。世界にはさまざまな「民俗学」が存在する。

日本の民俗学は、その中の一つに過ぎない。

植民地期の台湾で生まれた『民俗台湾』が、宗主国日本の言語による雑誌であり、その進もうとする道を柳田國男との結びつきの中に探っていた点は、従来多く指摘されてきた。

ただ、『民俗台湾』の実際の紙面構成を見てみると、日本民俗学とは異なる視点と関心からなる独自の世界が展開されており、単なる日本民俗学のコピーというわけではないことに気づかされる。

そこには、本国との微妙な関係の上にではあったが、「もう一つの民俗学」が出現していたのである。

「民俗学」は複数形だ。そのことを学ぶためにも、すべての民俗学徒に『民俗台湾』を薦めたい。

## お奨めします

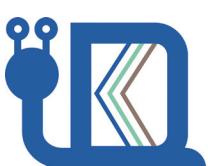
民俗学、近現代史、アジア史、植民地、政治史、軍事、社会学、メディア史、広告、文学の研究者、大学図書館、公共図書館

株式会社かなえ

〒170-0014 東京都豊島区池袋1-10-8  
TEL : 03-3982-6633 FAX : 03-6789-5706  
Email : info@kanae-book.co.jp  
URL : <https://kanae-book.co.jp>



取扱店



紀伊國屋書店 学術電子図書館  
**KinoDen**  
Kinokuniya Digital Library